

**研究区分:教育改革を志向した研究**  
**看護学生の背景の違いによるエイジズムに関する調査**  
**—横断的調査による FAQ の比較—**

東 孝至, 栗山 真由美

看護学講座 広域看護学ユニット

**【目的】**

看護学生の背景とエイジズムとの関連に着目し、看護学生が持つエイジズムの実態を横断的に明らかにすることで、老年看護学教育の内容を検討することを目的とした。

**【方法】**

1~4年生に対して、基本属性(性、年齢、同居の有無として①老人からの世話を受けた経験、②老人を世話した経験、③日頃の老人との会話、④老人との思い出について)を調査し、エイジズムの測定は、E, B, Palmore が作成した The Fact of Aging Quiz (以下 FAQ) の下位尺度をもたない全3部・75項目のうち、第1部の25項目で実施する。質問への回答方法は、「正しいと思う(○)」、「間違っていると思う(×)」、「わからない(△)」の3択とした。「わからない」は「知識がない」あるいは「どちらともいえない」と解釈し中間解答とした。正答は、高齢者に対する正しい知識を持っていると示し、偏見がない態度と判断できる。誤答は、高齢者に偏見があると判断できる。また中間回答を「不明瞭な知識や態度」とする。各質問項目の正答割合と誤答割合について、t検定および $X^2$ 検定(期待値5未満の場合はFisherの正確確立検定)を行った(有意水準5%)。分析にはIBM SPSS Statistics 26.0 for Windowを用いた。倫理的配慮には①研究への協力は自由意志であり、強制ではなく、授業成績には一切関係がない、②データの解析はすべて匿名で行われ、個人が特定されない、③研究成果を発表するが、本研究以外の目的では用いない、④入力されたデータはパスワードがかかったファイルで厳重に管理することを説明し、明治国際医療大学ヒト研究倫理審査委員

会の承認を得た。

**【結果】**

調査票は、本学看護学部1年生68名に配布し64名回収(94.1%)、2年生81名中77名回収(95.0%)、3年生76名中75名回収(98.9%)、4年生56名中54名(96.4%)回収し、総計270名(有効回収率96.1%)を調査対象とした(図1)。

学年			
		度数	パーセント
有効	1年生	64	23.7
	2年生	77	28.5
	3年生	75	27.8
	4年生	54	20.0
	合計	270	100.0

図1 調査結果

今回中間回答として設定した(△)は、1年生や2年生に多く、3年生や4年生は少ない結果であった。そして有意な関係のあった質問項目は、「3. ほとんどの高齢者は性欲がなく性的不能である」( $X^2=33.696, P<0.01$ )「7. 少なくとも1割の高齢者は老人ホーム、精神病院など長期ケア施設に入院・入所している」( $X^2=21.312, P<0.01$ )「9. 高齢労働者の効率性は、若い人より低い」( $X^2=26.398, P<0.01$ )「17. 大多数の高齢者は、社会的に孤立している」( $X^2=16.000, P<0.01$ )「21. 高齢者は年を取るにつれて信心深くなる」( $X^2=36.868, P<0.01$ )であった。さらに各学年で誤答率が50%以上の項目は「7. 少なくとも1割の高齢者は老人ホーム、精神病院など長期ケア施設に入院・入所している(63.6%)」「8. 車

を運転する高齢者が事故を起こす場合は、65歳以上より低い(70.9%)」「9. 高齢労働者の効率は、若い人より低い(58.9%)」「12. 高齢者は通常、新しいことを学ぶのに時間がかかる(73.7%)」「16. 大多数の高齢者は、めったに退屈しない(63.6%)」「18. 高齢労働者は、若い労働者よりも職場で事故にあうことが少ない(69.5%)」「22. 大多数の高齢者は、めったにイライラしたり、怒ったりすることがない(62.8%)」7項目であった。

### 【結果と考察】

1年生や2年生は、3年生や4年生よりも中間回答が多く、高齢者に対する不明確な知識をもつ状況が示された。また、学年が上がるにつれて高齢者の感覚機能や性的帰納に関する正確な知識を獲得し、社会的側面に対する理解が得られていた。しかし、各学年ともに誤答が7項目と多く、高齢者が住んでいる場所を把握し、高齢者の社会的活動の現状を知る機会の確保が求められていることが表出された。今後さらに臨地実習を通して基礎教育の中で省察していく。

### 【文献】

1. E. B. パルモア著 奥山正司, 秋葉聰, 片多順, 松村直道訳: エイジズム 優遇と偏見. 法政大学出版, : 249-256, 1995.
2. E. B. パルモア著 鈴木研一訳: エイジズム 高齢者差別の実相と克服の展望: 明石書店: 319-323, 2002
3. 山崎さやか, 黒田梨絵, 三木喜美子: 老年看護学概論受講前後における看護学生の高齢者観の変化: 健康科学大学紀要, 第14号: 217-229, 2018.
4. 谷口好美, 亀井智子: 病院・介護老人保健施設に勤務する看護職の高齢者観と看護上の不愉快体験: 老年看護学 Vol. 7No. 1: 110-118, 2002
5. 小山真理子, 牛山真佐子, 田村正枝, 菱沼典子, 村嶋幸代, 太田喜久子: 看護大学学生の高齢者および老人ケアに対する態度: 看護教育 Vol. 36(9): 815-819, 1995
6. 堀薫夫, 大谷英子: 高齢者への偏見の世代間比較に関する調査研究: 大阪教育大学紀要 第IV部門 第44巻第1号: 1-12, 1995
7. 小川妙子: 看護学生の高齢者へのエイジズム—1年生と3年生のFAQの比較—: 順天堂医療短期大学紀要 第12巻: 35-45, 2001
8. 南彩子: 永寿ズム: その意味と大学生への調査にみる高齢者施別意識: 天理大学人権問題研究室紀要 第7号: 1-14, 2004
9. 奥野茂代: 老年看護における高齢者観の再考: 老年看護学 Vol. 7No1: 5-12, 2002